

- ・ 地域医療介護連携事業について
- ・ 関西痛みの診療研究会 ・ 編集後記

地域医療介護連携事業について

我が国は諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しており、65歳以上の人口は既に3500万人を超え、2042年の約3900万人でピークを迎えるが、その後も75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年以降、介護の需要が更に増加することが見込まれています。厚生労働省は、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。高齢者が第一の愁訴である疼痛を抱えても、自宅等の住み慣れた生活の場で療養し、自分らしい生活を続けられるためには、地域における医療・介護の関係機関が連携して包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うことが求められています。

このような状況の中で令和2年度から厚生労働省慢性疼痛診療システム普及・人材養成モデル事業-近畿地区-地域医療介護連携事業が開始されました。柴田政彦（奈良学園大学保健医療学部教授/医師）・中塚映政（なかつか整形外科リハビリクリニック院長）・岡山容子（おかやま在宅クリニック院長）・高橋紀代（篤友会在宅医療センター医師）・下和弘（神戸学院大学総合リハビリテーション学部助教/理学療法士）・鳴尾彰（篤友会リハビリテーションクリニック理学療法士）・前田吉樹（奈良学園大学保健医療学部講師/理学療法士）がコアメンバーとして本事業の企画・運営を行なっています。毎年度2回のセミナーを開催して医師・看護師・療法士だけでなく、介護地域包括の職員・ケアマネジャー・介護士など多職種の方々に参加頂き、疼痛を訴える要介護者に対して多職種協働により医療・介護を一体的に提供できる体制を構築するための取組みを行ってきました。

中塚 映政
（なかつか整形外科リハビリクリニック院長）



2022.11.26 地域医療介護連携セミナー

関西痛みの診療研究会について

関西痛みの診療研究会は、2010年に始まり今年度13回目を迎えました。第7回まではファイザー株式会社とエーザイ株式会社との共催でしたが、第8回以降は自主運営しており、第9回目以降、本モデル事業の共催という位置づけで開催しております。関西のペインクリニックの医師と心療内科の医師が中心となり、通常の診療ではうまくいかない症例に対してどのようなアプローチがよいかを検討する目的で、症例検討に十分時間を取り議論を尽くしてまいりました。また、痛み関連の第一人者を招き最新の情報を学ぶ機会を提供してまいりました。コロナ禍で難しくなりましたが、懇親会で痛み談議に花を咲かせ親交を深め、「顔の見える」連携を図ることに大きく貢献してきたと自負しております。通常の学会ではなかなか理解が困難な事柄も、この研究会を気に新たな気づきを得られたとの声も伺っています。痛み診療の基礎はやはり症例検討にあると思います。このような議論の場は非常に貴重なのでこれからも長く続くことを祈り、微力ながら尽力させていただきます。

水野 泰行
（関西医科大学心療内科学講座）

関西痛みの診療研究会 当番世話人			
第1回	2010年	大阪大学	柴田 政彦
第2回	2011年	滋賀医科大学	福井 聖
第3回	2012年	関西医科大学	水野 泰行
第4回	2013年	兵庫医科大学	神原 政仁
第5回	2014年	神戸大学	高雄 由美子
第6回	2015年	西宮市立中央病院	前田 倫
第7回	2016年	奈良県立医科大学	渡邊 恵介
第8回	2017年	兵庫医科大学	恒遠 剛示
第9回	2018年	関西医科大学	水野 泰行
第10回	2019年	兵庫医科大学	高雄 由美子
第11回	2020年	国立がん研究センター	松岡 弘道
第12回	2021年	滋賀医科大学	中西 美保
第13回	2022年	奈良県立医科大学	渡邊 恵介

編集後記

本モデル事業は3年ごとに行われており、今年
は最終年度で一区切りを迎えます。近畿地区の本
事業は、慢性の痛みに関連する9つの領域に事業
を細分化し、事業ごとにセミナーを年1-2回開
催してまいりました(9事業の模式図)。痛みセン
ターを新たに7か所設立した事をはじめ、施設相
互見学や心身医療のネットワークを構築するなど、
近畿地区の慢性の痛み診療体制構築に努めてまい
りました。



新型コロナ流行下ではWEBを活用し、近畿地区
にとどまらず日本全国からもセミナーに参加し
ていただきました。さらに関西痛みの診療研究
会、認知行動療法研修セミナーなど関連領域と
の連携も進めてまいりました。初年度セミナー
の総参加者数は700名でしたが、本年度は1600
名を超え、医療者の教育、啓発には一定の役割
を果たすことができました。

また、今年度は患者会のセミナーや一般市民を
対象としたYouTube配信にも挑戦し1,000人
以上の方にご覧いただきました。

本事業では、参加者の現場の声を尊重して患
者の痛みの訴えにどんなふうに取り組んでい
くのが望ましいかを一緒に考えることを大事にし
てまいりました。慢性の痛みの多くは、特別な
治療法がなく、本人の前向きな気持ちを引き出
すことが大事です。知慮意欲を引き出す接し方
や対処法、さらにこのような対応が現場に定着
させる方法について共に考える機会を提供でき
たことは関係者一同、「よかった」と感じてお
ります。多くの方々から支援の言葉を頂戴し、
役割を果たすことができました。本事業の運営
にご協力いただいた関係者の皆様方及び参加し
ていただいた皆様方に感謝申し上げます。

モデル事業近畿地区アドバイザー
柴田政彦 (奈良学園大学)



2023.2.23 市民公開講座 (YouTube配信)

事務局

〒520-2192
滋賀県大津市瀬田月輪町
滋賀医科大学麻酔学講座内

ホームページ
<http://painkinki.html.xdomain.jp/>

